

## スロベニア年金制度概要

2016年8月 在スロベニア日本大使館

### 1. 年金の種類

- (1) 老齢年金 (old-age pension)
- (2) 早期年金 (early pension)
- (3) 部分年金 (partial pension)
- (4) 障害者年金 (disability pension)
- (5) 寡婦年金 (widow's pension)
- (6) 遺族年金 (survivor's pension)

### 2. 平均受給額 (月額: 2015年)

- (1) 老齢年金 613,11ユーロ
- (2) 障害者年金 472,93ユーロ
- (3) 寡婦年金 386,22ユーロ

### 3. 給付開始年齢及び主要な条件

- (1) 老齢年金 60歳 (男女) (加入期間40年以上) 又は65歳 (加入期間15年以上)
- (2) 早期年金 60歳 (男女) (加入期間が40年に満たない者で、未納期間分の差額を支払った者)
- (3) 部分年金 老齢年金又は早期年金の受給資格者の中で、1日4時間又は週20時間以上勤務した場合、部分年金が給付される。

- (4) 障害者年金

#### ●障害1級の場合

●障害2級 (①職業リハビリなしでは適切な正規の職に就けないが、55歳以上のために同リハビリを受ける資格がない場合。②職業リハビリなしでは1日4時間以上のパートタイム労働に就けないが、50歳以上のために同リハビリを受ける資格がない場合。)

●障害2級又は3級で、65歳以上のため適切な職に就けない場合

●障害が労災又は職業病による場合 (年金加入期間は問わない。)

- (5) 寡婦年金 死亡した年金制度加入者の配偶者 (事実婚も含む。)

- (6) 遺族年金

●死亡した年金制度加入者の子供、継子、孫及びその他の養子

●死亡した年金制度加入者により生計が維持されていた両親

### 4. スロベニア年金制度の課題

スロベニアは我が国と同様に高齢化の問題を抱えており、OECDはスロベニアの年金制度の持続性確保のために、平均寿命の上昇に合わせた退職年齢引き上げや、私的年金制度の導入による民間部門の貢献促進等の改革を勧告している。しかし、スロベニアは旧ユーゴ時代から充実した年金制度を有し、改革には消極的な年金者党等を連立に含む中道左派勢力が長期的に政権を握ってきたこともあり、改革の実施は容易ではない。2013年にも改革が行われたが、政府内の議論の過程で次々と具体的な施策案が骨抜きにされ、結果として小規模の改革となった経緯がある。IMFも2015年の技術ミッションの報告書において「現在GDPの20%近くにも及ぶ年金や社会保障費の支出割合の増加は、財政の持続可能性における最大の課題である。その理由は急速な高齢化と「現行制度への寛容さ」であり、「最近の改革も一時的な支出削減効果しかない」旨指摘しており、更なる改革が期待されている。